

れることなど、幼児の睡眠で問題とされがちながらが簡単に説明されている。

最後に、学生や研究生に与える課題が例示してある。参考までに掲げてみよう。

第一部

子どもの活動を二時間観察して、次の問いに答えよ。

1、子どもが疲労しているという事実がどのように現れたか。

2、疲労の原因と考えられる行動について。

第二部

ナースリースクールに設けられた休息時間を観察し、次の問いに答えよ。

1、子どもたちをよく休息させることの出来る部屋の状態はどんなものがよいか。

2、先生が子どもの休息を促すため、どんな態度をとっているか。

3、一人ひとりの子どもに対して、どんな方法がとられ、そのどれが成功したか。

第三部

休息時間に特殊な行動を示す子どもを二人観察せよ。

1、その子ども各々について一〇分間観察し、逸話記録を書け。

2、これらの二人の行動に、大きく影響している原因は何か。
(以上)

以上は、お茶の水女子大学児童学科内で開かれている「洋書を読んで討議する会」の八月例会で紹介した内容であるが、紹介後の討議内容を簡単にまとめれば、次のようなものであった。

「討議内容」

(一)質問事項。——個人差が強調されているが、個人差の認め方が全面的に大巾になされているのか、それとも枠内なのか。(紹介内容に関して)

答——明確ではないが「昼寝時間」とか「昼食前三〇分間の休息」とかいう表現から推して、一定のプログラムが組まれ、その範囲内での個人差の認め方のようにである。もちろん特殊な事例に関しては別であるが。

(二)意見。——①幼児の活動が静と動の交替が上手く行なわれるものなら、成人が意図的に計画する必要がないのではないか。

②個々人のリズムが異なるため、ある子どもが疲れて、横になりたくとも、他の子どもは遊んでいるといった状態であるから、現実には一定のプログラムでも組まない、休息がとれないのではないか。

③日本では、保育所では昼寝の時間が設けられているが、幼稚園では一般に関心がないが、それでもよいのか。一時半頃帰宅したとして、その後、昼寝したり、休息したり出来ない子どももあることを考えて、幼稚園で計画的に二〜三〇分の休息時間を帰宅の前で設けてみることも一案ではないか。

④実験的にコントロールグループを作ってやってみて帰宅後の子どもの気嫌・健康状態など観察してみたらよいのではないか。

(尚絢女学院短期大学 本田和子)

幼児の教育 第五十九卷第十一号

十一月号 © 定価 五十円

昭和三十五年十月二十五日印刷

昭和三十五年十一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。